

新 副会長紹介



文化活動委員会

副会長
兼文化活動委員長

秋山 陽彦
(小59、中2期)

この4年間を見据えて

前期に引き続き副会長に指名されました。川原体制は二期目に入り、前期の成果を改めて見直し、再評価して4年後に繋げる正念場ともいえる重要な時期であると思います。基本的には、私は前期同様後ろで執行部や山桜会活動を支える重しの役を務めさせて頂くつもりです。

更に今期は文化活動委員会を束ねる役を仰せつかりました。スケールが大きく、極めて多岐にわたる山桜会の文化活動は何よりも会員の役に立つものでなければなりません。会員の皆様の趣味、教養、知識、精神を高め、更に人的交流にも貢献する文化活動を展開したいと考えています。これによって人脈が広がり、外部との交流も行えるようになれば素晴らしい事です。そのためには優れたエンタテイナーと、多くの実行部隊が必要です。才能にあふれた、熱意のある方々の参

加を歓迎します。先ず重要なジャンルからいくつかの活動を取り上げ、順次スタートさせようと思います。山桜会の文化活動は、あらゆる委員会のお世話になりながら遂行されるものと考えます。私見ですが、各委員会の委員長、副委員長の方々には是非とも全員文化委員を兼ねて頂きたいと思います。「船頭多くして、船大洋を渡る」が基本方針です。どうぞ御協力下さい。なお山桜会ゴルフは前期に引き続き既に今年度の計画をスタートしております。

山桜会に於ける文化活動は、基本的にはボランティア活動であると考えます。いろいろの場で交流が広がるでしょうが、文化活動の場を商売や取引、宣伝の場にたくありません。文化活動を離れた、別のプライベートなお付き合いのなかでお願い致します。



財務委員会

副会長
兼財務委員長

川口 正弘
(小71、中高14期)

2期目の就任に当たって

再度副会長を務めさせていただくことになりました。過去3年間、微力ながら山桜会改革のために一生懸命にがんばってきましたが、仕事を持った上でのボランティア活動に限界を感じたところもありました。過去の反省をふまえ、これからの4年間精一杯頑張っていきたいと思っております。

私は過去の3年間と同様、財務委員会、渉外交流委員会、教育支援委員会の3委員会をみていくこととなりますが、財務委員会については委員長を兼務することになりました。財政の厳しい山桜会ですが、活動を活発にしながら将来の為に積立もしていかなければなりません。昨年度は将来の少子化を見据え、会員の皆様方にご無理を申し上げて年会費制を導入させていただきました。多数の方々にご理解をいただき、お振り込みいただいた額は700万円以上になり非常に感謝いたしております。

今年度は昨年度以上の方々よりのお振込をお待ちいたしております。また財務委員会では、お振り込みをいただいた方へのメリットも検討していきたいと思っておりますので、何か妙案がありましたらお聞かせいただきたいとおもっています。渉外交流・教育支援につきましては、各委員長をもり立て、大活躍した前期以上の活動ができるよう応援したいと思います。

最後に、4年の任期の間にどうしてもしたいことがあります。それは新支部の設立です。

山桜会には東京支部しかありません。東京支部総会に4度出席させていただきましたが、素晴らしい会だといつも思っています。このような支部が全国に出ることを夢見て頑張りしたいと思います。同地区で「好きやねん追手門」の人が3人集まれば連絡下さい。支部結成のお手伝いをさせていただきます。



総務委員会

副会長
兼総務委員長

生川 紳一郎
(小75、大中高18期)

山桜会をより明確に、より近くの存在に

川原会長のもと二期に渡り大役を引受けることになりました。今期の方針は前期に完全に消化し切れなかった事を、達成するためにも、総務と広報を重点的に関わって参ります。そこで、会の活動や学校の現在の状況を出来る限り多くの会員の皆様に、ディスクロージャーし、スピーディに分かりやすく伝える事が、重要と考えます。何分会報は年2回発行のために、即応性には無理がありますのでホームページを主体にして委員会報告等を発表して行きたいと考えております。

2008年には創立120周年を迎えるのですが、私たちの母校は多くの山桜会会員を社会に送り出しているのです。教育とは国の将来を決める重要なことであると、社会の一員になっておられる方々には、

ご理解できると思います。今母校に問われるのは、現役生徒達の無限に広がる可能性を引き出すことです。そのためにも、会員が積極的にサポートする事も必要であると考えます。昨年、山桜会と学院主催の講演の中で、大先輩の堺屋太一先生は、日本の社会は『知価社会』にならなくてはならないと説かれていました。山桜会もおとな社会の会として、母校の身近にいる卒業生と学院の知識資源を活用する機会を持つ事も、会を運営する立場として考えていきたいと思っております。そのためにも、今後開催する文化活動やイベントに是非参加する機会を設けていただくことで、山桜会をより近くの存在にして欲しいと思ひ、そうすることが母校と会の発展につながるのだと思ひます。